

CR4BT™ • CR5BT™

Multimedia Monitors w/ Bluetooth®

日本語オーナーズマニュアル



安全の為に

この製品を設置、使用される前に必ずお読み下さい。

お使いになる方や周囲の方々への危害、財産への損害を防ぐため、下記の内容を守ってこの製品を安全にお使い下さい。本書はいつでもご覧になれる場所に保存してください。

本書で使用する記号について

	「必ず守って下さい」という強制を表しています。		「絶対にしないでください」という禁止を表しています。
--	-------------------------	--	----------------------------



警告

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本書を全て読むこと

この製品を設置、使用する前に必ず本書を全てよく読み、本書の内容に従って下さい。



必ず実行

専用電源コードは仕様に適合した電源に接続すること

適合しない電源に接続すると、本体の故障、火災や感電の原因になる場合があります。本機は 100V 専用モデルです。日本国外での使用はできません。



禁止

水分をかけたり湿気にさらさないこと

この製品の上に花瓶や飲み物など、液体が入ったものを置かないで下さい。また、この製品を雨や霧にさらさないで下さい。感電や火災、故障の原因になります。



必ず実行

電源コードは安全に配置すること

電源コードをストーブの近くなど高温になる場所に設置しないで下さい。また踏んだり物に挟んだり、無理な配線を行うと、電源コードが損傷して火災の原因になる場合があります。また足など体の一部を引っ掛けるような場所に配置しないで下さい。負傷の原因になる場合があります。



禁止

本体を落下しないこと

本体の故障はもちろん、周囲の方が負傷する原因になります。



禁止

電源コードを濡れた手でさわらないこと

感電の原因となる場合があります。



禁止

大音量で使わないこと

この製品をアンプやスピーカーなど他の機器と組み合わせて、大音量を再生しないで下さい。一時的または恒常的な難聴や、スピーカーなど接続している機器が故障する原因になる場合があります。



必ず実行

移動するときはケーブルを全て抜くこと

電源コードや接続ケーブルを接続したまま本体を移動しないで下さい。ケーブルを痛めたり、周囲の方が転倒する原因になります。



禁止

本体内部に液体や物をいれないこと

火災や本体故障の原因になる場合があります。この場合は修理をご依頼下さい。



禁止

改造を行わないこと

決して製品内部を開いたり、ユニットパネルを動かしたり、その他マニュアルに記載されていない調整を行わないで下さい。これらの行為は感電やその他災害に繋がる可能性があります。また、あなたの製品にも損害を与える可能性があります。製品内部を開くと、保証対象外となりますのでご注意下さい。



禁止

異臭や異常を感じたら修理を依頼すること

正常に機能しない、電源コードやプラグに異常がある等の場合は、修理をお申し付け下さい。

**警告**

この記号は取り扱いを誤ると死亡や重傷、火災の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

長時間使用しない時や落雷の危険があるときは電源プラグを抜くこと

火災や感電、故障の原因になる場合があります。



必ず実行

電源コードは必ずこの製品に付属のものをを使うこと

適合しないものを使用すると通電中に電源コードが加熱し、火災の原因になる場合があります。



必ず実行

本体を移動する時は適切な人数で作業すること

移動の際は必ず適切な人数で作業を行って下さい。その際、つま先や指などを挟まないようご注意ください。



必ず実行

他の機器やスピーカーと接続するときは予めアンプの電源を切っておくこと

接続時に大音量のノイズを発生し、聴覚異常やスピーカー破損の原因になる場合があります。



禁止

このスピーカーを吊り下げないこと

製品が落下して、近くにいる方が死亡または負傷する原因になる場合があります。このスピーカーは吊り下げて使うようには設計されていません。

**注意**

この記号は取扱を誤ると負傷、機器の損傷や物的損害の原因になる可能性がある内容に付いています。



必ず実行

本体は安定した場所に設置すること

本体を不安定な場所に設置すると、落下などによる故障の原因になります。



禁止

テレビ、ラジオ、携帯電話の近くで使用しないこと

この製品またはテレビやラジオなどに雑音が入る場合があります。



禁止

裸火を近づけたり熱源の近くに設置しないこと

この製品に直射日光を当てたり、ストーブなど熱源になるものの近くに置かないで下さい。本体が故障する原因になります。



必ず実行

スピーカーは定格範囲内で使用すること

定格範囲を超えるレベルや周波数を入力すると、スピーカーが故障する場合があります。特に歪にはご注意ください。



禁止

ボタンやスイッチ、入出力端子に無理な力を加えないこと

本体の故障やお使いになる方が怪我をする原因になります。

修理

- ・ 日本仕様の Mackie 製品の修理は、音響特機株式会社または提携サービスセンターで行っています。Mackie 製品の修理やメンテナンスが必要な場合は、次の手順に従って下さい。
- ・ 本書でご紹介しているトラブルシューティングの内容を確認して下さい。
- ・ テクニカルサポートに電話、もしくは support_mackie@otk.co.jp にメールをし、「メンテナンス申込書」を請求して下さい。「メンテナンス申込書」に必要事項をご記入の上、04-2944-3812 へ FAX して下さい。折り返し RA 番号と送付先のサービスセンターが記載された修理受付表を FAX で返送致します。RA 番号はサービスセンターへ送付される前に必ず取得して下さい。
- ・ オーナーズマニュアルとケーブル類は同梱しないで下さい。修理には必要ありません。
- ・ 本体を梱包材とともに製品パッケージに入れて、サービスセンターへ送付して下さい。当社では輸送上のダメージを保証することができません。
- ・ 必ず、RA 番号が記載された修理受付表のコピーを同梱して下さい。また送り状の通信欄にも、RA 番号と商品名、製造番号を記載して下さい。RA 番号のない修理品は受付することができません。

保証

- ・ 本機の保証はご購入後 1 年間となっております。
- ・ 正常な使用状態で本体に不具合が生じた場合、正規のサービス担当者が無償で修理を行います。ただし、下記の場合は保証規定から除外されておりますので、予めご了承下さい。
- ・ お客様による輸送、移動中の落下、衝撃など、お客様のお取り扱いが適正ではなかったために故障が生じた場合
- ・ お客様のご使用上の誤り、不適正な改造、弊社の認可のない改造及び修理が行われている場合
- ・ 火災、煙害、ガス害、地震、落雷、風水害などの天変地異、あるいは異常電圧などの外部要因によって故障が生じた場合
- ・ 本機に接続している機器及び消耗品に起因する故障、損傷
- ・ 正常な状態での使用中でも、自然消耗、摩耗、劣化によって故障あるいは損傷が生じた場合
- ・ 日本国外でご使用中の故障、損害

すべてのサポート・修理に関する情報は下記 Mackie 日本語ホームページをご参照下さい。

mackie-jp.com/support

技術的なご質問・修理窓口

サポートセンター

〒 359-0023 埼玉県所沢市東所沢 2-37-1
塚腰運送敷地内

☎ 04-2944-3811

FAX 04-2944-3812

✉ support_mackie@otk.co.jp

営業日 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

営業窓口

東京 東京都中央区日本橋小伝馬町 10-1

☎ 03-3639-7800 (代表)

FAX 03-3639-7801

大阪 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-4

☎ 06-6152-7751

FAX 06-6152-7752

名古屋 名古屋市東区泉 1-23-30

☎ 052-950-3324

FAX 052-950-3325

広島 広島市中区富士見町 16-22-604

☎ 082-258-2916

FAX 082-2582917

福岡 福岡市南区大橋 4-16-18-201

☎ 092-554-6066

FAX 092-554-6064

営業日 月曜日～金曜日 9:00～17:30

休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・夏季

ご質問は電子メールでも承ります。

✉ sales_mackie@otk.co.jp

Contents

CR4BT・CR5BT の特徴	5
はじめに	6
このマニュアルの使い方	6
クイックスタート	6
接続図	7
リアパネルの機能	9
1. 電源コード	9
2. 電源スイッチ	9
3. シグナルインプット	9
4. パワードスピーカーポジションセレクトスイッチ	10
5. 配線ターミナル（±）	10
6. カスタムチューンド・リアポート	10
フロントパネルの機能	10
7. Aux インプット	10
8. ヘッドフォンアウト	10
9. ボリュームノブ	10
10. Bluetooth	11
インプットシグナルワイヤリング	11
お手入れとメンテナンス	11
付録 A：サービスについて	12
付録 B：技術情報	13
CRBT シリーズ仕様書	13
CR4BT 寸法	14
CR5BT 寸法	14
CRBT シリーズブロックダイヤグラム	15

CR4BT・CR5BT の特徴

- ・マルチメディア制作や娯楽用に最適なスタジオクオリティーのデザイン・サウンド・パフォーマンス
- ・あらゆるスマートフォンやタブレットなどから、Bluetooth® を介して音楽をストリーミング
- ・高音質を実現するプロフェッショナル仕様のコンポーネント
 - ・ 50W 出力のクリーンかつ正確なステレオサウンド
 - ・ ポリプロピレンコーティングウーファー
 - ・ 4 インチ [CR4BT]
 - ・ 5 インチ [CR5BT]
 - ・ 0.75 インチ磁性流体冷却式シルクドームツイーター
- ・幅広い周波数帯域で正確なサウンドを実現
 - ・ 70 Hz – 20 kHz [CR4BT]
 - ・ 60 Hz – 20 kHz [CR5BT]
- ・スピーカーポジションセクターで LR を設定できるので、机の左右どちらにでもボリュームノブ付きスピーカーを配置可能
- ・ボリュームコントロールと電源のオン/オフをフロントパネルの LED 付きボリュームノブで操作可能
- ・スピーカーのフロントにスマートフォンまたはその他のデバイスを接続するための端子を搭載
- ・ヘッドフォンジャックにヘッドフォンを差し込むとスピーカー出力がキャンセルされ、ボリュームノブでヘッドフォンの音量を調整可能
- ・シンプルかつほぼ全ての音源に接続が可能（Bluetooth®、ステレオミニジャック、ステレオフォンジャック、RCA ピン）
- ・ウェーブガイドデザインによりどの音量でもクリアな音質を再生可能
- ・カスタム・チューニングされたリアポートがスムーズな低域再生を実現
- ・木製キャビネットを採用し、原音に忠実なサウンドを実現
- ・付属品：
 - ・アコースティックアイソレーションパッド：不要な低域の鳴りを抑え、定位感を向上。更リスニングポジションに最適な高さに調整
 - ・コンピューターとスピーカー接続用のステレオミニ - RCA ケーブル
 - ・LR スピーカー接続用ケーブル

はじめに

クリエイティブリファレンス™ シリーズは省スペースながらスタジオクオリティの音質とスペックを実現したマルチメディアモニタースピーカーです。

最大出力 50W のハイパワーと優れた高域再生を実現するウェーブガイドを搭載。正確な音質によりどのような用途にも対応します。さらに、CRBT シリーズマルチメディアモニターはシームレスな Bluetooth® ミュージックストリーミング機能を搭載しています。

フロントパネルにはスマートデバイス用インプット端子とヘッドフォン端子を搭載し、利便さを向上しました。

またケーブルも付属しておりますので、箱を出したらすぐに使用することが可能です。

クリエイティブリファレンス™ シリーズはプロクオリティの音質、デスクへ配置しやすい柔軟性に優れたデザインを兼ね揃えています。仕事やプライベート、様々な場面でご活用下さい。

このマニュアルの使い方

この後に続くクイックスタートガイドでは、本機を設定するための手順が説明されています。接続例では典型的な使用例を紹介し、後半のページでは CR4BT と CR5BT モニターの詳しい使い方についてご説明します。



このアイコンはこのモニターで特に重要、あるいは独自の情報を示す際に使われています。よく読み、覚えておくとい良いでしょう。後々役に立つ場面があると思います。



このアイコンは CRBT シリーズを使用する際の機能や TIPS を紹介する際に使われています。

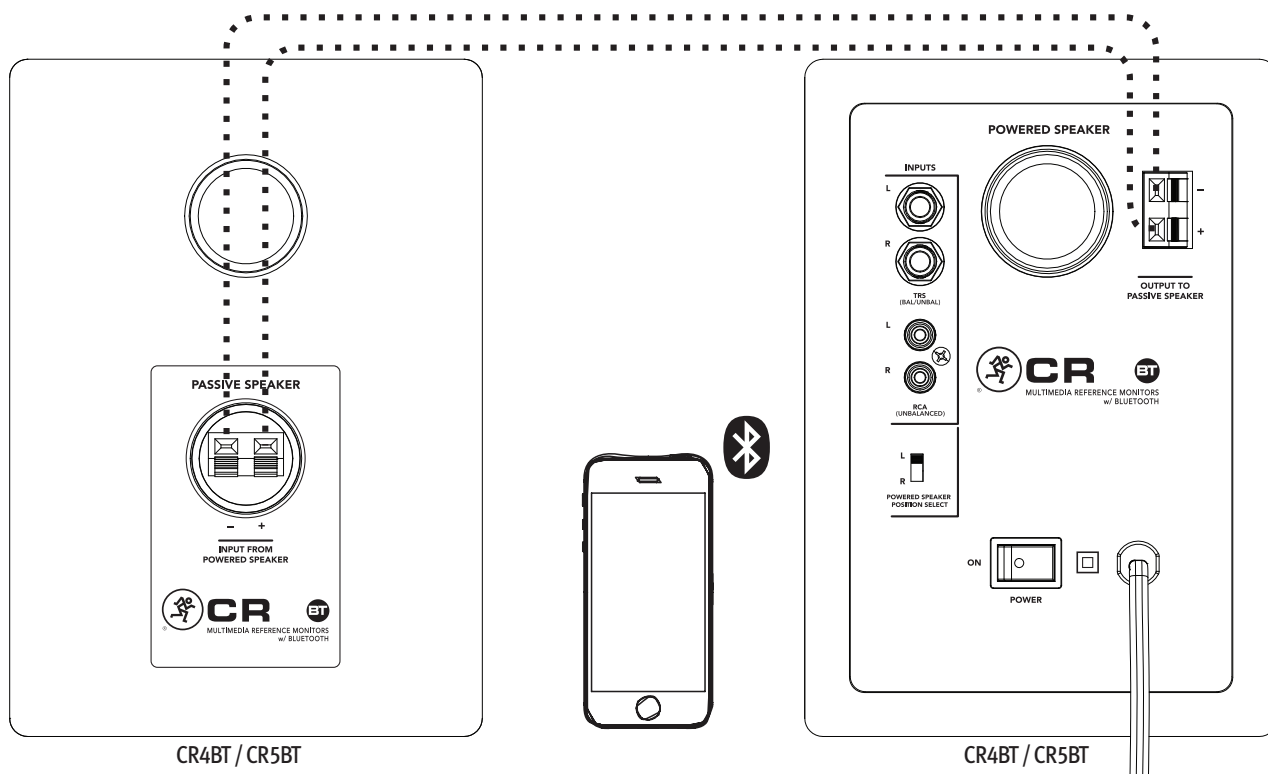
クイックスタート

すぐにでも CRBT シリーズを箱から取り出して音を出してみたいところですが、このページだけは読んでください。その他のページは必要になった時で構いません。

1. 初めて電源を入れるときは、フロントのボリュームを反時計回りにし、最小の位置にセットして下さい。
2. スピーカー背面のスイッチがオフになっている事を確認します。これによりケーブルを接続した際に突然大きな音がでて驚くことがなくなります。
3. パワードモニター側(電源スイッチがあるスピーカー)の黒(－)と赤(＋)のスプリングクリップをパッシブモニター側(スイッチが無いスピーカー)の黒(－)と赤(＋)のスプリングクリップとスピーカーケーブルで配線します。
4. 電源コードを電源コンセントに接続して下さい。本機は 100V 専用モデルです。日本国外での使用はできません。
5. スピーカーの電源を入れます。
6. Bluetooth® を介してスマートデバイスを接続します。[P.9 をご参照下さい]もしくは ... コンピューターやミキサーもしくはその他のデバイスからのラインレベルの信号を、モニタースピーカーのリアパネルのステレオフォンジャックもしくは RCA ピンへ入力します。コンピューター、ミキサー（もしくは他のデバイス）の電源を入れます。
7. フロントのボリュームノブを時計回りに、ノブがクリックするまで回します。ボリュームノブの回りを囲った LED リングが点灯します。
8. 音源を再生し、聴きやすい音量になるようにゆっくりとフロントパネルのボリュームノブを調整します。残りのページにも CRBT モニターに関する様々な情報が記載されていますので、意欲のある方は是非読み進めて下さい。

その他の注意

- ・ 長時間、大音量で音楽を聴かないで下さい。P.2 の安全条項をよく読んで下さい。
- ・ 一般的に機器の電源を切る際は、モニターの電源を最初に切ってください。あらゆる機器から発生される恐れのあるノイズを防ぐことができます。電源を入れる際は、モニターを最後に入れるようにして下さい。
- ・ 外箱や同梱物は大切に保管して下さい。将来必要になる場合があるかもしれません。詳細は P.4 をご参照下さい。



上のイラストは CRBT マルチメディアモニターシリーズの典型的な使用例を示したものです。状況としては、あなたのフレンドがスマートフォンを使って特別なプレイリストを作って、是非あなたに聴かせたいと思っている、といったところでしょうか。遂にその時がきました。決して良い趣味とは言えない音楽に耳を傾けましょう。この経験は誰もが一度はしているはずです。

この例では、スマートフォンは Bluetooth® を介して CRBT シリーズと接続されています。

オプション：スマートフォンのステレオミニジャックと、CRBT シリーズのフロントパネルにあるステレオミニジャック Aux インプットを付属のケーブルで接続しても問題ありません。

次にパッシブスピーカーを接続します。パワードモニター側（電源スイッチがあるスピーカー）の黒（-）と赤（+）のスプリングクリップをパッシブモニター側（スイッチが無いスピーカー）の黒（-）と赤（+）のスプリングクリップとスピーカーケーブルで配線します。

黒（-）と黒（-）、赤（+）と赤（+）を接続

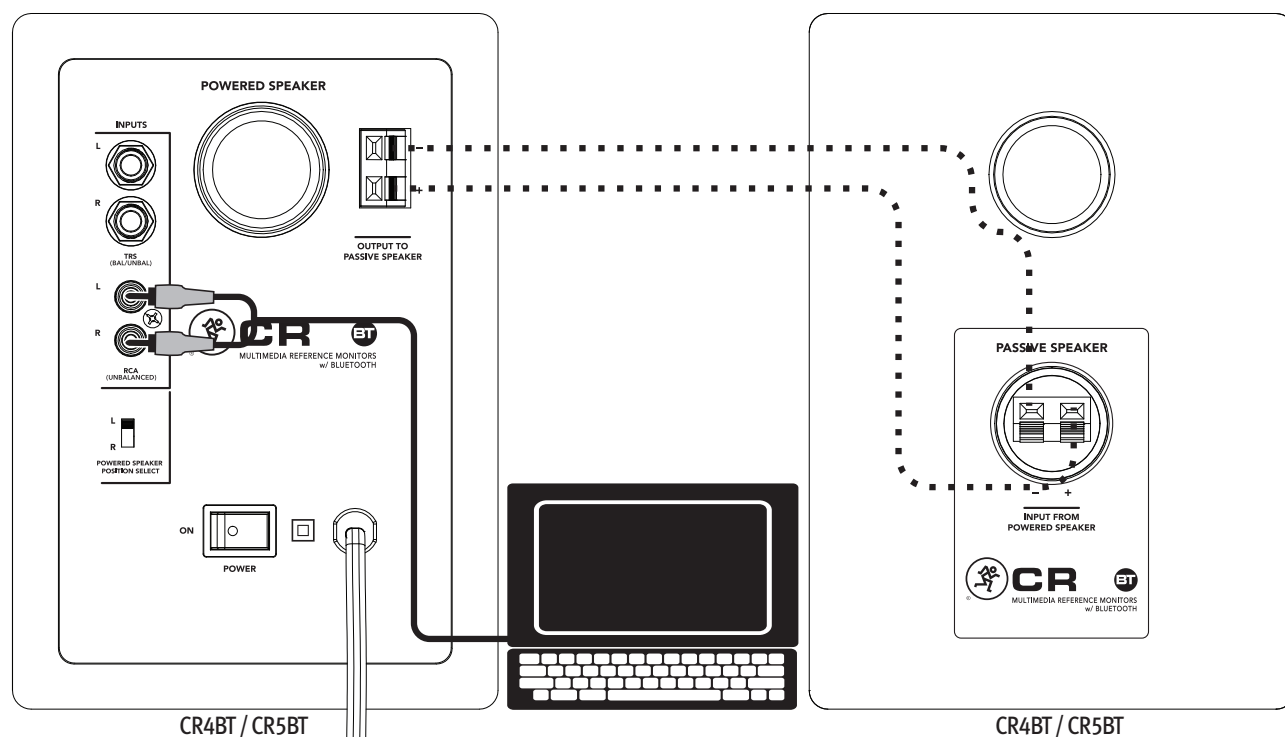
ゴールまでもうすぐです。パワードスピーカーポジションセレクトスイッチを L と R のいずれかにセットします。ボリュームノブが付いているパワードタイプのものを机の左に配置した場合は L、右に配置した場合は R にセットして下さい。

次にモニターを好みの場所に配置します。スマートフォンとモニターのボリュームを 0 にセットし、音源を再生して下さい。

最後のステップです。最適な音を得られるようモニターの位置を調整し、音量を調整します。

オプション：ヘッドフォンジャックにヘッドフォンを接続すると、自動的にスピーカーの出力がオフとなります。フロントパネルのボリュームコントロールで、ヘッドフォンのレベルを調整します。

接続図



上のイラストは CRBT マルチメディアモニターシリーズの典型的な使用例を示したものです。仕事中的 BGM は欠かすことができませんよね。。私だけではないと信じています。

この例では、シンプルにコンピュータのステレオミニフォンジャックから CRBT に RCA ピンを使って接続しています。RCA ピンではなくてステレオフォンジャックでも接続可能です。

次にパッシブスピーカーを接続します。パワードモニター側（電源スイッチがあるスピーカー）の黒（-）と赤（+）のスプリングクリップをパッシブモニター側（スイッチが無いスピーカー）の黒（-）と赤（+）のスプリングクリップとスピーカーケーブルで配線します。

黒（-）と黒（-）、赤（+）と赤（+）を接続

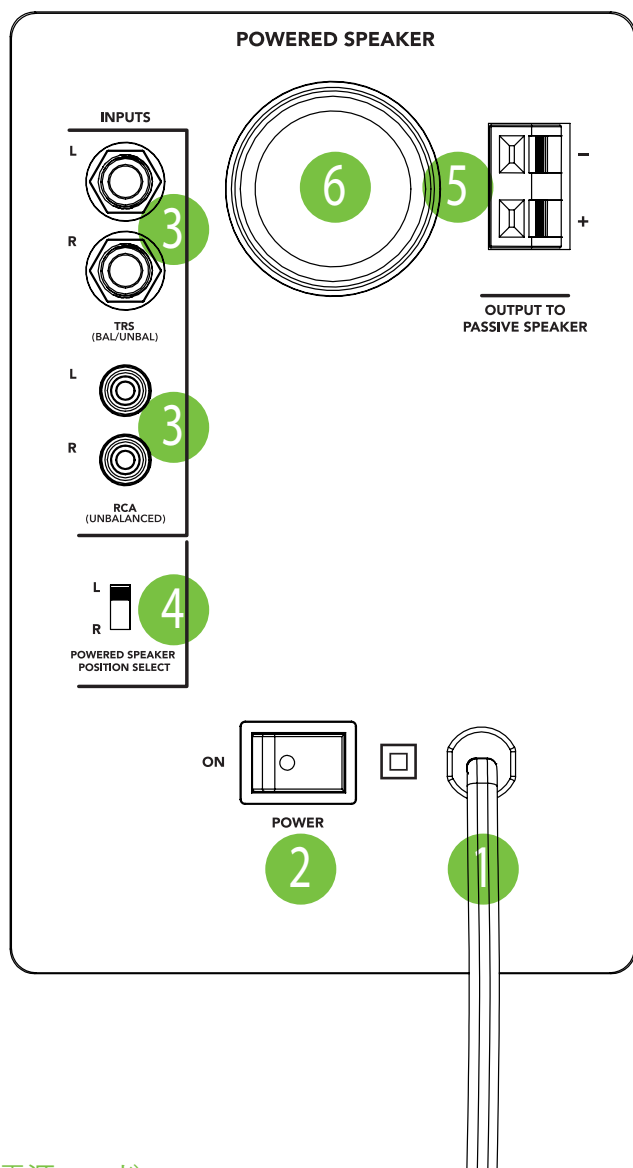
ゴールまでもうすぐです。パワードスピーカーポジションセレクトスイッチを L と R のいずれかにセットします。ボリュームノブが付いているパワードタイプのものを机の左に配置した場合は L、右に配置した場合は R にセットして下さい。

次にモニターを好みの場所に配置します。コンピュータとモニターのボリュームを 0 にセットし、音源を再生して下さい。

最後のステップです。最適な音が得られるようモニターの位置を調整し、音量を調整します。

オプション: 付属のアコースティックアイソレーションパッドを用いることで、不要な低域の鳴りを抑え、定位感を向上。更にリスニングポジションに最適な高さに調整することができます。

リアパネルの機能



1. 電源コード

電源コードを電源コンセントに接続して下さい。本機は 100V 専用モデルです。日本国外での使用はできません。

2. 電源スイッチ

このスイッチを左側に押しこむことで電源を入れます。スイッチを入れる前に、ボリュームノブ (9) がオフ (反時計回りに回しきった状態) であることを必ず確認して下さい。ボリュームノブを囲っている LED リングは、CRBT シリーズの電源コードが電源コンセントに接続され、スイッチがオンになっている時に、モニターがクリックするまでフロントパネルのボリュームノブを時計回りに回したときに点灯します。

このスイッチを右側に押し込むと、モニターはスタンバイ状態になります。この時動作はしませんが、回路に電気は通っています。電源を完全にオフにする場合は、電源コードを抜いて下さい。

3. シグナルインプット

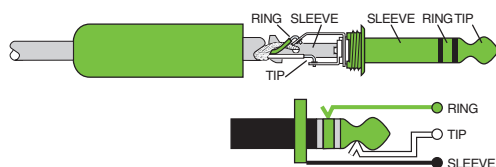
コンピューター、ミキサー、またはその他の音源からのライン出力をこのインプットに接続します。端子には 2 つのタイプがあります。バランス、アンバランスソースを接続できる TRS インプットと、アンバランスソースを接続できる RCA インプットが搭載されています。これらのインプットは電氣的に相互接続しているため、同時に一箇所以上のインプットジャックを使用しないように気をつけて下さい。

6 メートル以上のオーディオケーブルを用いて接続する場合、構造的にノイズが乗りにくいバランス伝送を用いることを推奨します。

配線は以下のようになっています。これは AES(Audio Engineering Society) が定めたものです。

バランス TRS フォン

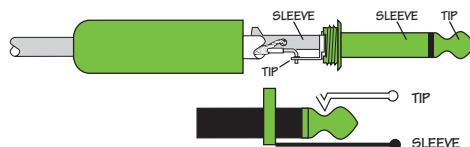
ホット (+)	チップ
コールド (-)	リング
シールド (グラウンド)	スリーブ



バランス TRS フォン

アンバランスフォン

ホット (+)	チップ
シールド (グラウンド)	スリーブ



アンバランスフォン

アンバランス RCA コネクター

ホット (+)	チップ
シールド (グラウンド)	スリーブ



アンバランス RCA コネクター

4. パワードスピーカーポジションセレクトスイッチ

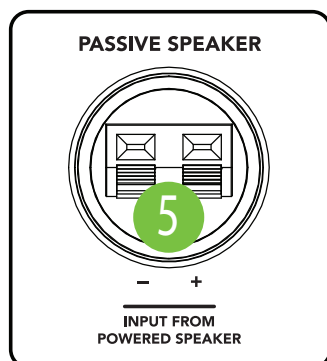
このスイッチで電源コードがついているパワードスピーカーを机の左側（スイッチを上）に配置するか右側（スイッチを下）に配置するかを決定します。この機能があることでコンセントの位置に縛られることなく、コントロールが付いているスピーカーを左右どちらに配置するかを決めることができます。

また、左利きの方も右利きの方も関係なく自由にスピーカーを配置できます。シンプルに、パフォーマンスを最大限発揮できるように設置をして下さい。

5. 配線ターミナル（±）

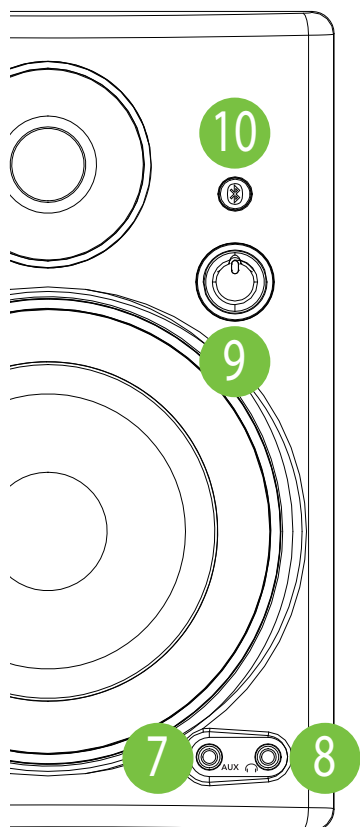
パワードモニターの±スプリングクリップとパッシブモニターの±スプリングクリップ（右図の緑の⑤）を

付属の赤黒ケーブル [黒 (-)、赤 (+)] で接続します。



6. カスタムチューンド・リアポート

リアパネルへ特性に合わせて設計されたポートを開け、ウーファーコーンの後面から出る低域の音波を反転させて正相として放射させることで、低域レスポンスを向上しています。ポートのサイズはキャビネットのボリュームとウーファーの特徴に合わせて最適な大きさに設計されています。



フロントパネルの機能

7. Aux インプット

MP3 プレイヤーやスマートフォンもしくはその他のデバイスからのラインレベルの信号を、このインプット端子にステレオミニプラグを用いて接続します。

配線は以下のようになっています。これは AES(Audio Engineering Society) が定めたものです。

ステレオ 1/8" TRS (ステレオミニフォン)

左チャンネル	チップ
右チャンネル	リング
グラウンド	スレーブ

8. ヘッドフォンアウト

この 1/8 インチ TRS コネクターからはヘッドフォン出力が供給されます。ボリュームはボリュームノブ (9) でコントロールすることができます。ヘッドフォンが接続されると、パワーアンプへの信号は切断されます。

配線は以下のようになっています。これは AES(Audio Engineering Society) が定めたものです。

ステレオ 1/8" TRS (ステレオミニフォン)

左チャンネル	チップ
右チャンネル	リング
グラウンド	スレーブ



注意: このヘッドフォンアンプはかなりの音量で再生されることがあるため、難聴の原因となる場合があります。ヘッドフォンによっては中程度のレベルでも痛いほどの音量となる可能性があります。ご注意ください！ヘッドフォンを Phones ジャックに接続する前に、必ずボリュームノブを下げて、音楽を再生しながらゆっくりと音量を上げていきます。ボリュームの調整は、できる限りゆっくりと行うようにして下さい。

9. ボリュームノブ

CRBT シリーズマルチメディアモニターにはラインレベルの信号を入力して下さい。このノブはシグナルの入力感度を調整します。

このノブはボリューム調整だけでなく、モニターのオン/オフスイッチとしても機能します。反時計方向へクリックするまで回すと、電源はオフになります。時計回りに回すとボリュームを上げることができます。

コンセントに電源を差し込み電源スイッチ (2) をオンにすると、ボリュームノブを囲むリング形状の LED が点灯します。

レベル設定の手順は P.6 のクイックスタートセクションをご参照下さい。

10. Bluetooth

CRBT の電源を入れると、Bluetooth の機能は以下のどちらかの状態になります。

1. スリープモードに入り、Bluetooth LED が消灯している状態。
下記の「初めてペアリングを行い接続する」をご覧ください。
2. ペアリング済み・接続済みで Bluetooth LED が点灯している状態。下記の「以前よりデバイスをペアリングし、接続している」をご覧ください。

初めてペアリングを行い接続する：

ペアリングモードに入るには、Bluetooth ボタンを 2 秒間長押しして下さい。ペアリングモード中は、約 30 秒間 LED が点滅します。(LED はデバイスと問題なくペアリングができるまで点滅し続けます。)

CRBT がペアリングモードに入ると、LED の点滅と同時に Bluetooth デバイスをスキャンします。お持ちのデバイスのリスト上に、CRBT が新たに確認できます。CRBT を選択後、お持ちのスマートデバイス上で、問題なくペアリングができたかどうか確認を行って下さい。無事にペアリングができた場合、CRBT の LED の点滅が止まり、常時点灯している状態となります。もし上手く行かなかった場合、ペアリングの作業をもう一度行って下さい。この時、CRBT とお持ちのデバイスが同時にペアリングモードに入っているかどうかをご確認下さい。

以前よりデバイスをペアリングし、接続している：

Bluetooth の通信は、デバイス同士の距離が離れてしまった場合、切断されます。以前よりペアリングを行っているデバイスの場合、CRBT の電源を入れると自動的に再接続されます。

NOTE Bluetooth デバイスが CRBT に接続されている場合、CRBT 本体の Bluetooth ボタンを押すと、素早くオーディオの一時停止 / 再生が可能です (デバイスの一時停止 / 再生ボタンと同じ機能です)。

インプットシグナルワイヤリング

CRBT マルチメディアモニターには、下記のアクセサリが付属します。

- ・ コンピューターとスピーカー接続用のステレオミニ - RCA ケーブル
- ・ LR スピーカー接続用ケーブル

これらのケーブルは最初から付属していますが、別のケーブルがいずれは必要になるでしょう (例えば猫と綱引きをしたり、子供が鞭として使ったり、出血時の止血帯として使われたり)。もしくは 1/4 インチインプットを好んで使うかもしれません。その場合は高品質なシールドケーブルを別途ご用意願います。

この 3 つのタイプのコネクタは一般的なケーブルであれば殆ど全てのタイプを接続することができます。

- ・ 1/4 インチインプット端子には、バランス TRS フォンもしくは

アンバランス TS フォンを接続することができます。

- ・ アンバランスフォノケーブルは、RCA インプット端子へ接続することができます。
- ・ バランス TRS ケーブルは、1/8 インチインプット端子へ接続することができます。

NOTE: オーディオケーブルを電源ケーブルやコンセントなど、電磁干渉を発生するものの近くに置かないで下さい。これらはハムノイズの原因となります。壁コンセント付近や、複数のケーブルが束になって置かれているような場所に設置すると、ハムノイズを拾ってしまう可能性が高くなります。

NOTE: いくつかのホームシアターアプリケーションにおいては、レシーバーがプリアンプアウトもしくはラインレベルのアウトプットを備えていない場合のみ、レシーバーのスピーカーアウトを使用して下さい。



注意：スピーカーアウトからの信号を直接パワー ドタイプの CRBT の 1/4 インチインプットもしくは RCA インプットに接続しないで下さい！スピーカーレベルはラインレベルの信号よりも比較的大きいので、CRBT シリーズの入力回路を損傷させる恐れがあります。

レシーバーのスピーカーアウトと CR モニターを接続する場合は間にアッテネーターを挟んで下さい。アッテネーターはお近くの機器販売店でお買い求め頂けます。

お手入れとメンテナンス

CRBT シリーズマルチメディアモニターは、下記のガイドラインに従って使用されている限り、長年にわたって信頼性の高いサービスを提供します。

- ・ このモニタースピーカーを霧にさらさないでください。
- ・ 極端に温度が低い場所 (氷点下) に置かないで下さい。
- ・ キャビネットのお手入れには、乾いた清潔な布だけをお使い下さい。また、電源が確実に切れていることを確かめて下さい。

付録 A：サービスについて

CRBT シリーズマルチメディアモニターに問題が発生した場合は、下記の「トラブルシューティング」を参照して問題点をご確認下さい。弊社のウェブサイトのサポートセクションをご覧ください。下記の内容に沿って状況を確認しても問題が解決しない場合、または明らかに製品が故障している場合は、ただちに使用を中止してこの製品をお求めの販売代理店まで修理をご依頼下さい。

トラブルシューティング

電源が入らない

- 私たちの大好きな質問です。AC コードは接続されていますか？
- 電源ケーブルがしっかりと差し込まれていますか？
- コンセントが電力を供給しているかテスターなどで確認して下さい。
- リアパネルの電源スイッチ [2] はオンのポジションになっていますか？
- ボリュームノブ [9] の周りのリング上の LED は点灯していますか？点灯していない場合は、コンセントから電力が供給されているか確認して下さい。点灯している場合は、下記の「音が出ない」をご覧ください。

音が出ない

- ボリュームノブ [9] の周りのリング上の LED は点灯していますか？点灯していない場合は、上記の「電源が入らない」をご覧ください。
- ボリュームノブ [9] は上がっていますか？
- 音源の音量は上がっていますか？コンピューター、ミキサー、MP3 プレイヤー、Bluetooth デバイス（もしくはその他の優先的に接続されているデバイス）の音量が十分に上がっているか確認して下さい。
- ステレオペアとして使用している場合は、左右のスピーカーを入れ替えてみてください。例えば左のスピーカーから音が出ないと仮定した場合、スピーカー側で左右のケーブルを入れ替えて下さい。音が出た場合、原因はモニターではありません。ケーブルや音源に問題がある可能性があります。

音が良くない

- 入力コネクタがジャックに最後までしっかり挿し込まれていますか？ジャックが完全に接続されていることを改めて確認して下さい。
- 音量が大きくて歪んでいますか？音源の音量が適切なレベルに調整されているか確認して下さい。
- 可能であれば、ヘッドフォンでプリアンプ段階の音源を確認して下さい。もしそこで音が悪ければ、モニター以外に原因があることが考えられます。
- 低域が出過ぎている、もしくは低域が足りないと感じますか？モニターの配置場所を変えて、低域のレスポンスが変化するかどうか確認して下さい。部屋の形状によって低域がブーミーになったり、逆に薄く聴こえてしまうことがあります。その場合はモニターの位置を変更するか、リスニングポジションを変更してみてください。

ノイズ/ハム/バズ

- コンピューター/ミキサー/MP3 プレイヤー/スマートフォンとモニター間の接続に問題がないか確認して下さい。全ての接続に問題はありますか？ケーブルがしっかり接続されていないとノイズの原因になる場合があります。
- CRBT マルティメディアモニターのバランスインプットへ接続されるものがアンバランス信号の場合、信号源のシールドがグラウンドへ接続されているか確認して下さい。
- 信号ケーブルを電源コードや電源トランスなど電磁干渉を発生するものの近くに設置しないで下さい。これらはしばしばノイズの原因となることがあります。
- スピーカーと同じ電源回路に、照明用のディマーやトライアックベースの機器を接続していませんか？ディマーはしばしばバズノイズの原因となります。AC 電源フィルターを使うか、スピーカーを別の AC 電源回路に接続して下さい。
- ヒスノイズが発生している場合、スピーカーへ入力される前の段階でゲイン設定が適切に行われていない可能性があります。
- 可能であれば、ヘッドフォンでも音を確認してください。そこでノイズが確認できた場合、原因はモニターではありません。

ご不明な点は…

- mackie-jp.com
にアクセスしてサポートの項目をご覧ください。
- support_mackie@otk.co.jp までメールをお寄せ下さい。
- テクニカルサポートセンターにお電話下さい。
- 日本語：04-2944-3811（月～金曜、9am～6pm）
- 英語：1-800-898-3211（月～金曜、営業時間 PST）

付録 B：技術情報

CRBT シリーズ仕様書

音響特性

周波数特性 (-3dB)	70 Hz - 20 kHz [CR4BT]
	60Hz - 20 kHz [CR5BT]
周波数特性 (-10dB)	60 Hz - 20 kHz [CR4BT]
	50Hz - 20 kHz [CR5BT]
最大ピーク音圧レベル (ペア)	100 dB [CR4BT]
	103 dB [CR5BT]
クロスオーバー周波数	3 kHz

トランスデューサー

低域ユニット	[CR4BT] 4.0 インチ /102mm ポリプロピレンコーティングウーファー
	[CR5BT] 5.0 インチ /127mm ポリプロピレンコーティングウーファー
高域ユニット	0.75 インチ /19mm シルクドームツイーター

アンプ

定格出力	28 W rms
	50 W ピーク
動作方式	クラス AB

インプット/アウトプット

入力端子	バランス / アンバランス 1/4 インチ TRS アンバランス RCA [リア] 1/8" TRS [フロント]
入力インピーダンス	20 k Ω 、バランスブリッジング 10 k Ω 、アンバランス
出力端子	1/8" ステレオヘッドフォン [フロント]

Bluetooth

Bluetooth プロトコル	3.0
Bluetooth ファンクション	オーディオストリーミング

必要電源

米国	120 VAC, 60Hz
ヨーロッパ	220-240 VAC, 50/60 Hz
韓国	220 VAC, 60 Hz
日本	100 VAC, 50/60Hz
消費電力	72W (大音量音楽再生時)

Note: 本機は 100V 専用モデルです。日本国外での使用はできません。

構造

形状	長方形
エンクロージャー	ソリッド MDF
仕上げ	ブラックビニールラップ
ハンドル	無し
ポート構成	カスタム設計リアポートチューブ
吸音材	断熱性綿
フロント LED	パワーリング
動作温度	0 - 40°C

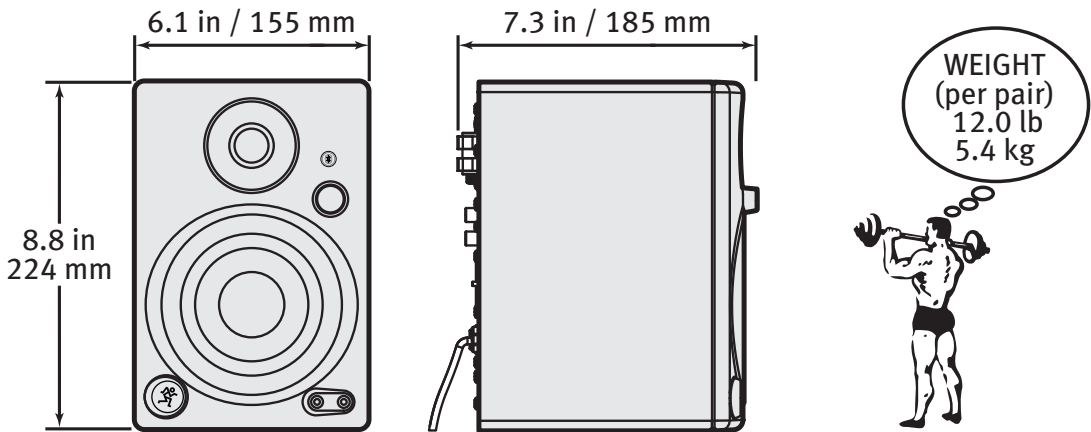
寸法・重量

CR4BT	寸法	高さ 224 mm 幅 155 mm 奥行き 185 mm
	重量	5.4 kg [ペア]
CR5BT	寸法	高さ 259 mm 幅 175 mm 奥行き 229 mm
	重量	6.8 kg [ペア]

LOUD Technologies 社は、常に新しい素材、部品、製造方法を取り入れて製品を改善するよう努めているため、製品の外観および使用は予告なく変更することがあります。

「ランニングマン」、「Running Man」は LOUD Technologies 社の登録商標です。他の商品名または会社名は各社の商標または登録商標です。

CR4BT 寸法



CR5BT 寸法

